

令和7年  
5月号地域おこし  
協力隊新聞阿智村産業振興公社  
松浦 未洋

阿智村の皆様、初めまして。  
令和7年4月1日から地域おこし協力隊として着任しました松浦未洋

（まつうら まさひろ）と申します。  
阿智村産業振興公社におきまして、農業研修をうけておりました。  
家族は現在も西宮市におり、妻と子どもが4人、すでに上3人は成人し、残すは高校生の末娘のみ。

末娘が大学進学すれば、妻もこち  
らに来る予定にしています。

永年、隣町である宝塚市で働いて  
29年間、宝塚市役所で勤務していま  
したが、長年の夢であった長野暮らし  
をするために、ご縁あってこの阿智村に参りました。

昔から山や自然が好きで、将来は  
長野で自然に囲まれて生活する」と  
を夢見ていました。

子育てもそろそろ落ち着くこと、  
新たな生活、農業の技術・知識を身  
に着けるには年齢的にも限界かと思  
い、一念発起、市役所を早期退職し、  
地域おこし協力隊に応募しました。

この年齢ですので、深刻な人口減少、  
SDGs、食料の輸入問題、子ども、  
自然環境、災害対策など、この国が  
行く末に様々思いはたくさんあります  
が、小難しいことは置いておいて、  
この文化的にも自然環境的にも魅力  
のある阿智村を楽しみ、引き継いで  
いきたいと考えています。

できれば居抜きで引き継げる農地

があればと思っていますが、いろんな  
タイミングや思いもありますの  
で、良い出会い、ご縁が大切である  
と思っています。

まずは多くの方と知り合って、少しでもかかわりを持ち、阿智の文化、  
自然、人達を知り、阿智の一員となる  
ことを目標としていますので、よ  
り多くのことが経験できたらと思  
います。

現時点では梨などの果樹に興味が  
あります。私が少しでも役に立つ  
ことがあれば、なんでも経験を積み  
たいと考えていますので、是非お声  
掛けください。

よろしくお願ひいたします。

阿智村産業振興公社  
熊谷 萌

に公社の職員さんもパートさんの姿  
を観察していましたのですが、やはりみ  
なさんは販売のスペシャリストでお  
客さんへ話しかけるタイミングや話  
す内容を人によって変えていたりす  
る所が特に参考になりました。

時々、公社の対面にあった「セイ  
セイナーセリー」の店主さんもおこ  
ぎの宣伝をしてくれました。店主さ  
んはおこぎの商品紹介がとにかくお  
か妙に心がそわそわしてしまいま  
す。こんな時は深夜近くなるまで泣  
きながら夏休みの宿題を解いていた  
小学生の頃の自分を思い出していました  
。私のメンタルはあの頃から  
まだまだ成長できていないようで  
す。似たような場数を重ね、いつの  
日かどんな場面に陥っても余裕を  
持った行動ができる人間になれたら  
良いなって思います。

さて話は変わりますが、私はこの  
春に花桃祭でスムーズな物販ができ  
るよう尽力しました。具体的には、  
開店準備中でも購入希望の方がいれ  
ばレジ対応、積極的な山菜や加工品  
等の商品紹介や接客、お金を預かる  
と同時に釣りを渡せるように予測  
で暗算するなどです。レジをしてい  
る間や少しお客さんの波が引いた時



その内容を少  
ます。講演は、島  
活用の概況、  
関するものな  
た。その中で  
るジジエの栄  
は、様々なフ  
なる栄養素補  
学・食品化学  
いう内容でし  
康にどう影響  
したので、そ  
とができる、ジ  
認識しました

國産ジビ工認証施設に  
じ多岐に渡つていま  
「年齢層」とに提案す  
養価値」と題する講演  
イフステージで必要と  
給にジビ工活用を栄養  
の観点から提案するよ  
た。ジビ工の喫食が健  
するのか興味がありま  
の点を具体的に学ぶこ  
ビ工活用の有用性を重  
し紹介させていただき

トリプトファンは、必須アミノ酸の一つであり、体内では合成できないので、食事から取り入れる必要があります。鹿肉には、トリプトファンが豊富に含まれていると講演で紹介されておりましたので、前記の諸症状にお悩みの方は、食事に鹿肉を取り入れていただくことで、改善する可能性がございます。そのためにも、阿智村の皆様に手軽に鹿肉を召し上がっていただけるようジビ工の商品開発や啓蒙活動に取り組んで参ります。

阿智村の皆様へ  
今日は、ジビエに関する取り組みについて「みどりの食料システムEXPO」に併催された「第2回ジビエ利活用・鳥獣被害対策展2025」にて、ジビエ利活用の講演に出席し学んで参りましたので、その内容を少し紹介させていただきます。



# 建設農林課 小田 智

していました。当曰は、残念ながらまだ満開とはなつていませんでしたが、それでも現地には、朝早くから多くの観光客が訪れ、活気に満ち溢っていました。わずか数十年前に、小さな苗木として植えられた花桃たちが、今では日本中から、そして海外からも、多くの人を惹きつけ、感動させている。そんな光景を目の当たりにして、この素晴らしい景観を生み出し、大切に育ててこられた先人たちの、たゆまぬ努力と、その偉業に、とても感慨深い気持ちになりました。

皆様 こんにちは、この原稿を執筆時には、村のあちらのこちらで、きれいな花桃が咲き乱れています。桃色、白色、赤色の花々が、とてもきれいです。

私は今回、公社のスタッフとして、「花桃まつり」で販売の経験をさせていただきました。当日は、残念な



# 阿智村產業振興公社 山田正剛

をメインに販売しました。正直など  
いの、私は、これまであまり山菜を  
食べるこじがなく、関心を持つこと  
もありませんでした。しかし、花桃  
まつりでは、多くの山菜好きのお客  
様がいらっしゃり、山菜について  
楽しそうに語るのを間近で聞いて  
いて、私も「ぜひ一度食べてみた  
い」と思つようになりました。特に  
気になつてゐるのが、午前中で完売  
しちしまつた「コシアブリ」と、こ  
の地域で親しまれてゐるところ「モ  
レギ」です。いったいどんな味なの  
か?食べるのがとても楽しみです。

